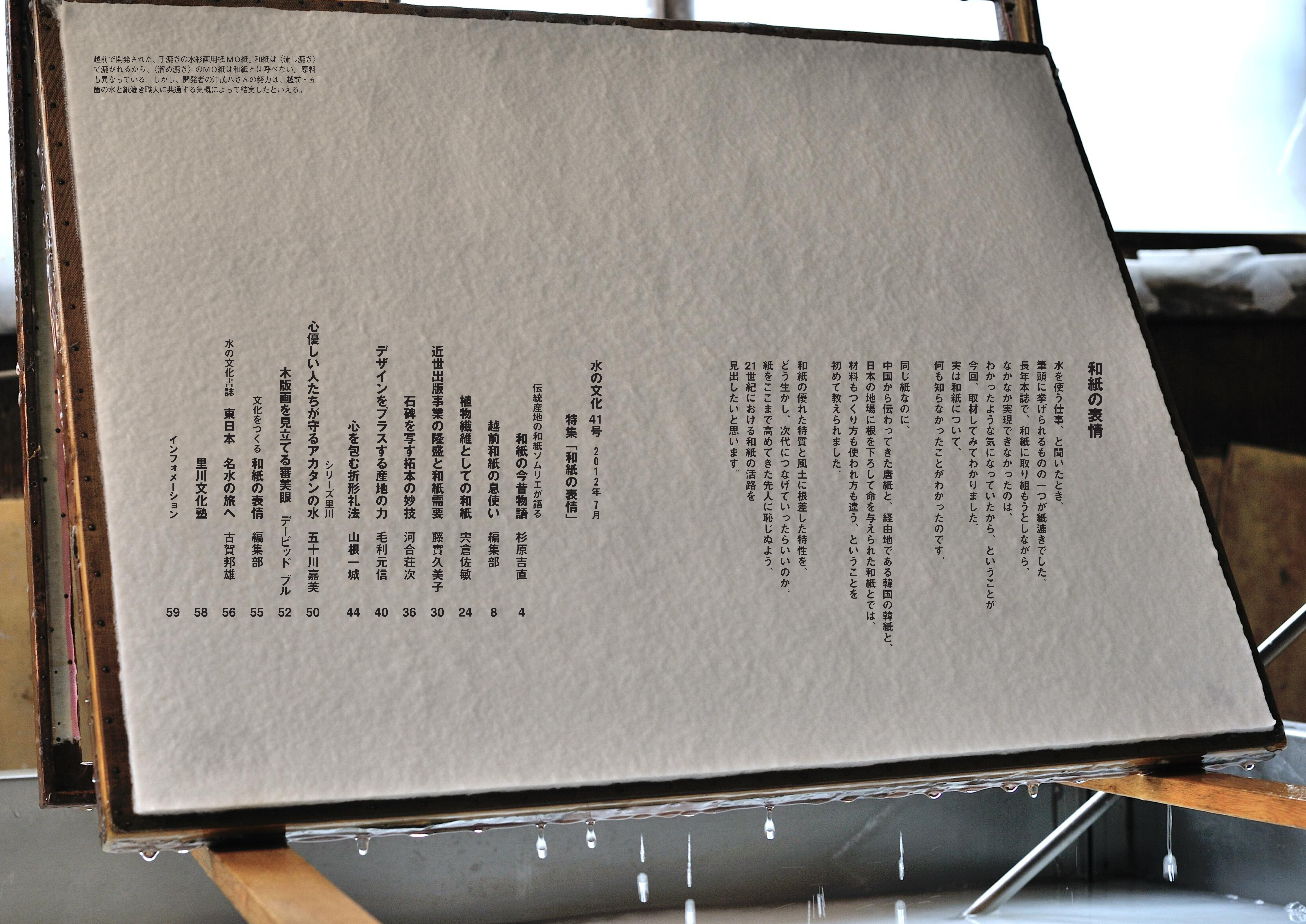

越前で開発された、手漉きの水彩画用紙ＭＯ紙。和紙は〈流し漉き〉で漉かれるから、〈溜め漉き〉のＭＯ紙は和紙とは呼べない。原料も異なっている。しかし、開発者の沖茂八さんの努力は、越前・五箇の水と紙漉き職人に共通する気概によって結実したといえる。

和紙の表情

水を使う仕事、と聞いたとき、
筆頭に挙げられるものの一つが紙漉きでした。
長年本誌で、和紙に取り組もうとしながら、
なかなか実現できなかったのは、
わかったような気になっていたから、ということが
今回、取材してみてわかりました。
実は和紙について、
何も知らなかったことがわかったのです。

同じ紙なのに、
中国から伝わってきた唐紙と、経由地である韓国の韓紙と、
日本の地場に根を下ろして命を与えられた和紙とでは、
材料もつくり方も使われ方も違う、ということを
初めて教えられました。

和紙の優れた特質と風土に根差した特性を、
どう生かし、次代につなげていったらいいのか。
紙をここまで高めてきた先人に恥じぬよう、
21世紀における和紙の活路を
見出したいと思います。

水の文化 41号 2012年7月

特集「和紙の表情」

伝統産地の和紙ソムリエが語る 和紙の今昔物語	杉原吉直	4
越前和紙の息使い	編集部	8
植物繊維としての和紙	宍倉佐敏	24
近世出版事業の隆盛と和紙需要	藤實久美子	30
石碑を写す拓本の妙技	河合荘次	36
デザインをプラスする産地の力	毛利元信	40
心を包む折形礼法	山根一城	44
シリーズ里川 心優しい人たちが守るアカタンの水	五十川嘉美	50
木版画を見立てる審美眼	デービッド ブル	52
文化をつくる 和紙の表情	編集部	55
水の文化書誌 東日本 名水の旅へ	古賀邦雄	56
里川文化塾		58
インフォメーション		59